

まちづくりあいかわ

～歴史的資源を活用した地域活性化の活動報告～

— 54号 —

発行所 佐渡市相川支所
〒952-1592
佐渡市相川栄町 27 番地
TEL 0259 (74) 3111 (代)
FAX 0259 (74) 2551

相川車座の報告

▼「立浪会ミニ公演 in 清水家」を開催中！

今年の 8 月 15 日～10 月下旬まで、相川車座下町交流ロビー（清水家ロビー）で、立浪会による「佐渡おけさ」と「相川音頭」のミニ公演を行います。実施協力費 500 円で、1 ドリンク付でお楽しみいただけます。

プレ開催時には、最多 30 名のほぼ満員状態となりました。最大 40 名程の会場ですが、立浪会の定期公演が行われていた昔の佐渡会館を懐かしみ、夜の相川の町中に民謡が聞こえてくる場所を作って行ければと思っています。

ホテルの宿泊者の方だけではなく、地元の地域の皆様にも、また、帰省中の方にも、皆さんから観覧いただき、楽しんでいただけるイベントとなっています。



佐渡会館での立浪会定期公演



清水家ロビーでの立浪会ミニ公演

佐渡の伝統芸能を堪能し、あるいは同じ空間で嗜むお酒を通じて、地域の方々と宿泊者の方々との交流の場所を作っていきたいと考えています。（詳しくは下段をご覧ください。）

Night Lounge Special 立浪会ミニ公演 in 清水家

- ◆ 実施協力費 500 円（1 ドリンク付）
- ◆ 20 時 15 分開場 20 時 30 分 or 20 時 50 分開演予定
- ※ 日程により開演時間が変わります。

- ◆ 8 月 15 日（金）・16 日（土）・22 日（金） ※ 8 月は 20 時 50 分開演
- ◆ 9 月 6 日（土）・7 日（日）・14 日（日）・19 日（金）・20 日（土）・26 日（金）・27 日（土）
- ◆ 10 月 3 日（金）・4 日（土）・10 日（金）・12 日（日）・13 日（月）・17 日（金）・24 日（金）・25 日（土）



—— イベント会場 ——

相川車座 下町交流ロビー
NIPPONIA 佐渡相川金山町 清水家
〒952-1558 佐渡市相川二丁目 23 番地
☎ 050-1720-9976



古民家を改修してホテル＆地域の交流ロビーとして活用しています。



トイレをご利用いただけます。

▼大山祇神社神事式に合わせて旧社務所の見学会

7 月 26 日に大山祇神社で行われた鉾山祭神事式に合わせて、その神事式へ来られた方々に休憩していただくべく、旧社務所の一部を無料休憩所として提供させていただきました。休憩所をご利用の方には、ふるまい酒やお茶を提供し、暑い日差しから逃れて涼んでいただきました。

また、涼みながら整備を終えた客室など、施設の内部を見学していただきました。ご覧いただいた方からは、「利用してみたい！」といった嬉しい感想をいただきました。

▼大山祇神社旧社務所の正式オープン延期のお知らせ

大山祇神社の旧社務所は、現在、客室などの主要施設の整備を終えましたので、宿泊の繁忙期に合わせ、日を限定してプレオープンしています。この間に、お泊りいただいたお客様からは高評価をいただいております。今後、さらに評価の上積みを目指し、当初予定していた残りの外構整備に加えて、周辺環境も生かした施設整備を追加します。このため、正式オープンは10月とする方向で調整中です。

正式オープンの際は、オープンイベントとして地域の皆様からお集まりいただき、レセプションの開催を予定していますので、ぜひお集まりください。

『飲食店待合案内所』

ボランティアスタッフ募集!!

佐渡國相川あきんど会では、せっかく相川に来ていただいたのに「どこも満席で食事ができない…」と困っている観光客の方を少しでも減らすため、ゴールデンウィークに引き続いて、このお盆にも『飲食店待合案内所』を開設しています。

このため、お盆の旺季に来られる観光客や帰省者の皆様に飲食店の空き状況等をご案内し、お店までの道案内をしていただけるボランティアスタッフを募集しています。1日だけや数時間だけでもOKです。ご協力ください！

【日時】8月9日(土)～8月15日(金) 10時～20時(延長の可能性有)

【場所】ぽんぽこホール 相川羽田町 31

【内容】飲食店の紹介・店舗への徒歩でのご案内

【お問い合わせ】090-2231-9996 (佐渡國相川あきんど会 会長 石見)

090-7437-4993 (佐渡國相川あきんど会 事務局)

空き家図書館 8月イベント 開催案内

▼「はるみばあばのこわい絵本のじかん」

春の大型紙芝居に引き続きはるみばあばが登場。

ばあばの子どもたちが小さかった頃、寝かしつけにお布団の中で読んであげた、ちよつと怖くてちよつと不思議な絵本たちを、その頃に戻ってはるみばあばが読み聞かせます。夏の終わりに、皆さんを涼しい世界にご案内します。

【日時】8月30日(土) 14時～15時

【参加費】無料(申込不要)

【場所】空き家図書館(京町ものがたり) 相川中京町 29-3

▼「I Love this book」

(大好きな本を紹介し合うイベント)

大好きな本を持ち寄って、ゆるくブックトークしましょう！読書が好きな方はもちろん、普段は読まないけれど、最近、気になる本に出会ってしまった方など、どなたでも大歓迎です！形式張らず、リラックスした雰囲気で大好きな本について気持ちをシェアするだけでOKです。本のジャンルは問いません。ビジネス書・小説・絵本など、どんな本でも大歓迎！読んだ時の感想や、その本があなたに与えた影響などを語り合いながら、新たな本との出会いを楽しみましょう。

【日時】8月31日(日) 14時～15時 30分

【持ち物】大好きな本(1～3冊ほど)

【一人当りの本紹介時間】15分ほど

【場所】空き家図書館(京町ものがたり) 相川中京町 29-3

【お問い合わせ】090-7437-4993 (地域おこし協力隊 伊藤)



空き家図書館
Instagram

地域おこし協力隊伊藤幹太の相川商人図鑑 Part 3

「Aラブ」 沖永良部とアラブ

相川で40年以上続く、老舗スナック「Aラブ」。カラオケの音が通りに響けば「あ、今日もAラブが賑わっているな」と分かるほど地元で親しまれています。もともとはご主人の「居酒屋をやりたい」という想いからスタート。

しかし、埼玉から佐渡に移住後、色々あり、喫茶店としてオープンするはずだったお店は、店舗建築中の大工さんからの助言により急遽方向転換。気づけばカラオケ機材も導入され、今のAラブとなりました。

奥様は鹿児島県・沖永良部島のご出身。人が好きで、どんな環境でもすぐに溶け込める天性のコミュニケーション力で、多くの常連客に愛されています。かつては学校の先生を志していたものの、「子どもが苦手」との正直すぎる発言で面接不合格に。その後、郵便局に勤めた経験もあるなど、ユニークな経歴の持ち主です。

佐渡に来た当初、ご主人からは「雪なんてない」と言われてやって来たものの、いざ着いてみると両津も相川も一面の雪。「騙された!」と嘆きながらの引越でした。さらに娘さんは船酔いで大変な思いをし、相川に着いて立ち寄ったラーメン



屋では、ご主人以外誰も完食できず：（残った分はご主人が全て平らげたそう）。それでも今、「最悪の引越」だった日から40年、こうして店を続けてこられたのは「お客さんのおかげ」と語られました。

Aラブの一番の魅力は、何と言っても「カラオケ」。新潟から取り寄せた高性能機材と、コード付きマイクによるクリアな音質で「相川で一番歌いやすい」と言われるほど。常連さんからは「カラオケとチョコレートはAラブが一番」と絶賛の声も。カラオケ好きな方は、ぜひ一度お試しあれ。

そしてもう一つの自慢は、鹿児島島の焼酎。芋焼酎から黒糖酒、シークワーサー風味のものまで、4種類を揃え、全国でもここしか味わえない限定の逸品です。これは奥様の故郷・鹿児島島の焼酎販売会社に特注して仕入れているもので、知る人ぞ知る名品となっています。

さらに最近では、ランチ営業もスタート。夏限定で「喜多方の冷やし中華」を提供しており、昼間しか食べられない人気メニューとなっています。「冷やし中華」目当てに訪れるお客さんも増え、Aラブは夜だけでなく、昼の相川にも彩りを添えています。ちなみに「Aラブ」という店名は、沖永良部島の「えらぶ」と、ご主人が暮らしていた「アラブ」から着想。カタカナ表記より英語の『A』の方がカッコいい！ そんな遊び心も魅力のひとつ。

「体が動くうちは働き続けたい。趣味は仕事だから。」と語る奥様。3年前から圧迫骨折を抱えながらも、店を続けている



のは「この仕事が好きだから。」と笑顔で語ってくれました。そして最近、嬉しい出来事がありました。奥様の出身地・沖永良部島から、お店を始めて以来、初めてお客様が来てくれたのです。「鹿児島から来ました、九州から来ましたってのはたまにあるんだけど、沖永良部島から来ましたってのは初めて。」と感慨深く語る奥様の表情が印象的でした。

情に厚い町・相川で、「人と人をつなぐ場所」として、今日も「Aラブ」には笑顔と歌声があふれています。

「Aラブ」 相川羽田町 72 番地 2 ☎0259-74-3933

・営業時間 11時30分～14時／19時～24時

お昼の営業時間は「冷やし中華」をやっています!!

・定休日 不定休(具合が悪い時は休みます)

今後も「相川の商人」をテーマに連載予定です!「このお店を取り上げてほしい」などリクエストがあれば、左記へご連絡ください。お待ちしております!

【お問い合わせ先】 090-7437-4993 (地域おこし協力隊 伊藤)

あいかわ道草話

箱館へ渡った佐渡の赤松

嘉永7年(1854)8月、佐渡奉行所の地役人益田鷹之助(益田孝の父)は、箱館奉行支配調役下役を命じられました。地役人は、現地採用のノンキャリア。佐渡以外で勤務することは極めてまれですが、「この趣、牧野備前守様(老中)仰せ渡され候」とあり、幕閣の意向とは驚きです。また、当時佐渡奉行だった内藤茂之助の推しもあったとか。

一方、江戸城奥詰医師の栗本鋤雲(じょううん、後に勘定奉行)は、勝手に西洋医学を学んだことをとがめられ謹慎。その後、

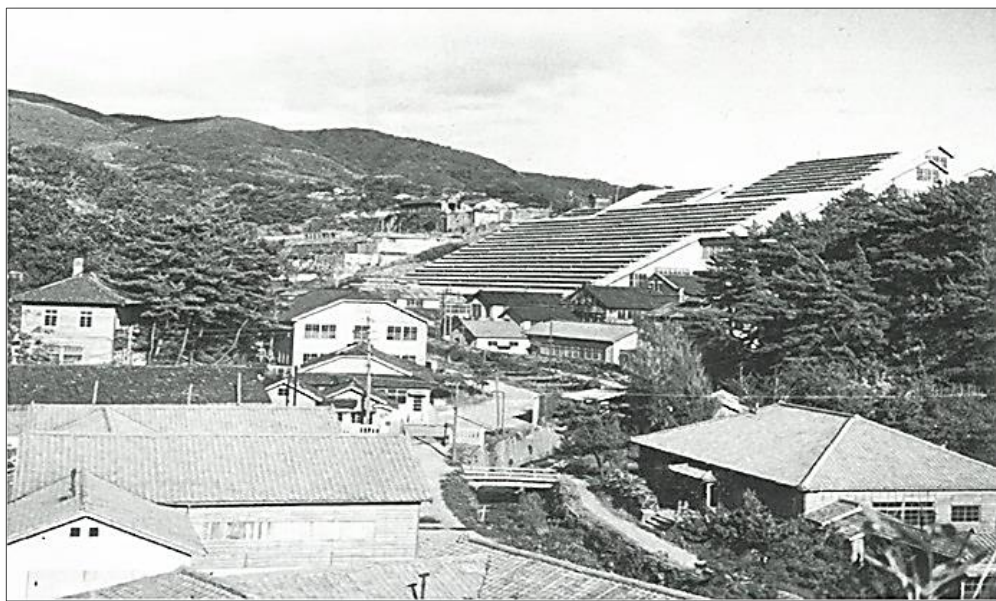
安政5年(1858)2月箱館奉行所詰めに。鷹之助が箱館の34キロ北方の川汲(かつくみ)銀山の赴任先から戻る2ヶ月前のことです。鋤雲は、鷹之助について「川汲銀山に多額の費用を投入したが、まだ一塊の銀も得ていない。要するに狡猾詐欺の術者に(奉行が)だまされたのだろう。氏は佐渡の鋤吏で慣れているが、ついに功をなさざりし」と記しています。

鷹之助は、安政6年(1859)3月に江戸詰めになりますが、それまでの間に鋤雲は、鷹之助から佐渡の様子を聞いたのでし

ようか。

その後、箱館奉行の組頭となった鋤雲は、佐渡から赤松の種を取り寄せ、自ら開いた菓草園「七種菓草園」で育て、築造された五稜郭内の奉行所周辺に、この苗木444本を植えました。

もしかすると、明治2年(1869)5月11日、新政府軍に最後の反撃を試みた土方歳三は、この赤松並木の脇を馬で駆け抜けたのかもしれない。今なお、老木となった85本の赤松が残されています。



昭和12年(1937)頃の北沢周辺の赤松。箱館奉行所のものと同年代と思われます。